

平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

がん終末期患者の訪問看護導入時に直面する訪問看護師の困難感

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護学系

学修番号 08894601

氏 名： 長内さゆり

（指導教員名： 河原加代子 教授）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

目的：迅速な対応を必要とするがん終末期患者の訪問看護導入時に着目し、訪問看護師が直面する困難感を明らかにすることを目的とした。

方法：M 県内の訪問看護師の経験年数 3 年以上の 6 名を対象者に訪問看護導入時の困難感について半構成的面接を行った。面接の内容をテープに録音し逐語録を作成した。分析は、困難感をキーワード・キーセンテンスから抽出しコード化し、意味を吟味しながらサブカテゴリーにまとめさらに抽象度を上げカテゴリーとして抽出した。

結果

- 1) 対象者の概要として、訪問看護師の年代は、30 代 4 名と 40 代 2 名であり、女性であった。看護師としての経験年数は 9 年から 24 年、訪問看護師としての経験年数は 3 年から 13 年とばらつきを認めたが、相応の経験があった。
- 2) がん終末期患者の訪問看護導入時に直面している困難感として 5 つのカテゴリーを抽出した。
 - (1) 訪問看護師が患者・家族に対しケアの提供時に生じる困難感として 3 つのカテゴリーを抽出した。【不安を抱えた患者・家族への接し方の苦慮】は《患者への関わり の躊躇》《動揺しやすい患者と接するうえでの苦心》《患者の理解を促進することへの苦慮》《介護者への関わり の躊躇》の 4 つのサブカテゴリー、【調整上の苦慮】は《生活調整への苦慮》《家族調整への苦慮》《患者・家族間の調整への苦慮》《医療機関との調整の苦慮》の 4 つのサブカテゴリー、【予測される懸念】は《予測される 病状変化への懸念》《予測される生活上の問題への懸念》《予測される家族の問題 への懸念》の 3 つのサブカテゴリーで構成された。
 - (2) 看護師の内面に生ずる困難感として 2 つのカテゴリーを抽出した。【看護師としての 揺らぎ】は《看護観の揺さぶられ》《不本意なケアの無念》《看護師としての無力 感》《信頼関係構築に対する焦燥感》《アセスメント困難に対する焦燥感》《患者理 解への苦悩》《自己の能力不足への苛立ち》《看護師としての怒り》の 8 つのサブカ テグories、【踏みとどまることへの苦悩】は《真摯に向き合う責任の重圧感》《請け 負う責任への覚悟》の 2 つのサブカテゴリーで構成された。

考察：がん終末期患者の訪問看護導入時は、患者・家族は精神的にも身体的にも不安定であり、その患者・家族を支援する訪問看護師も困難感を抱き揺れ動いていることが明らかとなった。訪問看護ステーションの管理者は、看護師がこのような困難感に直面した時にも臨機応変に瞬時に対応できるよう、支持的な関わりを積極的に行なうことが重要である。